



EVRI

教育ビジョン研究センター

ISSN-L(PRINT): 2435-8134 ISSN(ONLINE): 2435-8037

EVRI研究プロジェクト叢書 Vol. 8

Bulletin of the EVRI Research Project (Vol. 8)

2021年度東広島市広域交流型 オンライン地域学習

—2021年6月実践「ピンク色のバスのヒミツを
さぐれ！仲間をさがせ！」—



目次 CONTENTS

1. プロジェクト全体計画 03

2. 実施要領 07

3. 資料 15

のんバスの資料1

のんバスの資料2

のんバスの資料3

4. 実施報告 19

5. 担当者・協力者一覧 23

1. プロジェクト全体計画

はじめに

本叢書は、2021 年度に広島大学教育ビジョン研究センター(EVRI)と東広島市教育委員会(学校教育部情報教育推進室)の「協働」で実施された「広域交流型オンライン社会科地域学習」の成果を、月別に報告するものである。

詳細は、EVRI のホームページの実施記録に譲ることとして、ここでは「協働」の中身について紹介し、本プロジェクトの意義を指摘したい。

第1に、カリキュラムづくりの協働である。年間計画や毎月のテーマについては EVRI 側で原案を提案したが、最終的な実施計画は、毎月定期的で開催される双方の協議を踏まえて決定された。協議の間では、実施計画書案に基づいて各学級の教師や子どもの動きをシミュレートしたり、各月の研究課題を決めたりして(例えば、T1 と子どもと直接対話しよう、学級単位の活動を充実させよう、学級相互の対話を促進しよう)、細部にわたる授業計画の検討と漸進的な授業改善が行われた。

第2に、教師教育の協働である。授業の 1 週間前には、参加校の教員を対象に教材解釈や授業展開についてオンラインでのガイダンスを実施した。画面上には EVRI の草原(T1)と市教委の指導主事がスタジオのテーブルに並んで出演し、双方が掛け合いをしながら趣旨説明や質疑応答を行った。あわせて事前のテクニカルな支援を行った。

第3に、学校支援の協働である。授業には、市教委が雇用する技術支援員と、広島大学の大学院生・学部生及び EVRI のスタッフが外向き、授業の運営を支援した。EVRI は必要に応じて教材(写真や統計、ワークシートなど)や機材を提供するとともに、オンラインでの学習環境整備を現場で支援した。

第4に、授業評価の協働である。授業の終了後には、市教委は参加校の管理職や担当教員に、また技術支援員に聞き取りを行い、成果と課題を集約した。EVRI もまた同様に派遣学生から聞き取りを行うとともに、参加校の児童には質問紙調査を行い、結果を双方で共有した。このようにして蓄積されたデータは、次月の実践に活かされた。

このような「協働」が組織的に行われたことが、本プロジェクトの成果と考えている。

読者に注目してほしいのは、本叢書に所収された毎月の記録から見えてくる取組の変化である。実施計画書のフォーマットや提供される教材の量と質は、学校現場の要請や実施の成果を受けて、段階的に変化している。授業中の映像は、ライブ中継の単独から録画との併用へと変わった。中継先は、市内から市外へ、そして世界へと拡大した。T1が授業を行う場所は、中継先のフィールドから大学のスタジオへ、そして参加校の教室へと移動した。これらの変化が意味することの解明は今後の研究に委ねたいが、本叢書はこれらの点を考える基礎的資料を提供していると思われる。

2021年度の成果とその分析は、本叢書以外にも以下の文献に掲載されている。参照していただきたい。

- ・草原和博「越境的対話による教科教育の教室空間の変容－社会科を例に－」『中国四国教育学会第73回大会シンポジウム成果報告書・資料集』日本教科教育学会四国地区・中国地区教育学会, 2021年, pp.13-20。
- ・宇ノ木啓太『オンライン学習を導入した社会科地域学習の変革－理解主義の課題の克服を目指して－』広島大学大学院人間社会科学研究科修士論文, 2022年。
- ・草原和博「学びの民主化ツールを活用して地域学習を変革する」『社会科教育』明治図書, 2022年3月号, pp.10-13。
- ・草原和博「越境的対話による教科教育の教室空間の変容－社会科を事例に－」中国四国教育学会『教育学研究ジャーナル』第27号, 2022年, pp.47-52。

なお、本実践にあたっては、市教委や参加校の先生方、中継先の市役所・企業、地域住民の皆様など、多くの方々のご協力をいただいた。広島大学の学生や EVRI のスタッフには、毎月の実施に献身的なご助力をいただいた。広島大学大学院人間社会科学研究科からは、「令和3年度研究科裁量経費・東広島市連携・広域交流型オンライン地域学習支援事業」の補助金をいただいた。初年次でこれだけの成果が得られたのは、上述の関係機関のご支援の賜物である。ここに記して、あらためて御礼を申し上げます。

私自身は、この1年、90分の生放送のテレビ番組を毎月定期的に制作している感覚を覚えた。番組を作ることの難しさと喜びを、そしてチームワークの大切さを実感した。この経験を、今後の教育・研究に活かしていきたい。

2022年3月31日

広島大学教育ビジョン研究センター・センター長
人間社会科学研究科・教授

草原和博

◆ プロジェクトの趣旨

本書は、広島大学教育ビジョン研究センター(以下、EVRI)が、東広島市教育委員会と連携して行う、市内複数の小学校をオンラインで結んだ広域交流型オンライン社会科地域学習の実践とその成果を報告するシリーズ(分冊)の一部である。

EVRI(センター長:草原和博)は 2021 年度から、東広島市教育委員会と連携して、市内複数の小学校をオンラインで結んだ広域交流型オンライン社会科地域学習を開始した。実践を通して、[GIGAスクール構想](#)の推進によって実現した子どもたちの「1人1台」端末と学校の ICT 環境を活用して、市内各地からの中継を交えながら、東広島市の地理・歴史・政治・経済・文化などについて対話的・双方向的に学ぶことを意図した。さらに、この学びを広島大学の教員と大学院生がコーディネートすることで、実践の円滑な運営を支援しつつ、小学校教員が ICT を活用したオンライン授業を体験し、実践的な知見を獲得することができるよう配慮した。

2021 年度は、2021 年 6 月の試行に基づいて、毎月 1 回 2 時間、テーマを決めて授業を実施した。この企画が実現することで、小規模校と大規模校の子どもが、年間を通して、各地域のようすを比較したり交流したりしながら学びを深められることを意図した。なお、プロジェクトの実施にあたっては、参考コンテンツとして、EVRI が東広島市立図書館の依頼を受けて開発した「[東広島市地域学習用デジタルコンテンツ\(通称「のん太の学び場」\)](#)」を活用した。

[プロジェクト紹介ページはこちら](#)
(右の QR コードからもアクセス可能)

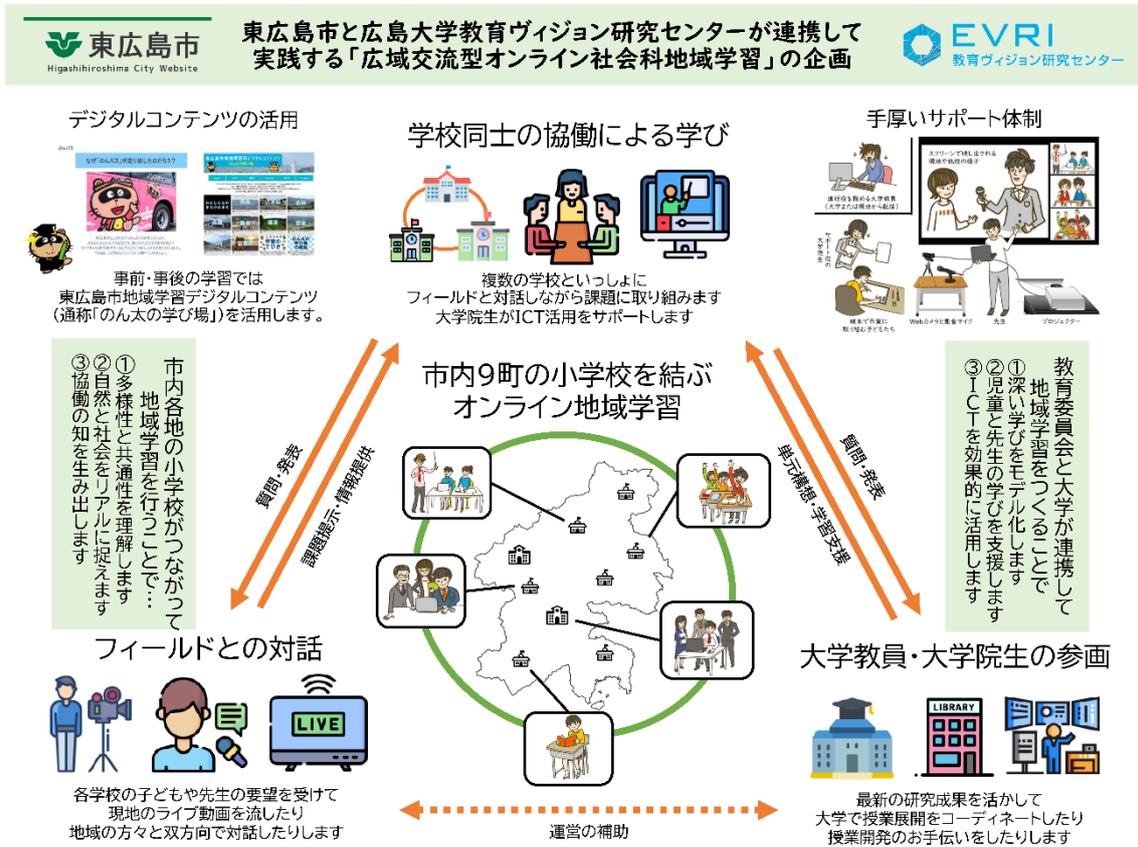


◆ プロジェクトの目的

EVRI が開発した「のん太の学び場」(東広島市地域学習用デジタルコンテンツ)と、東広島市教育委員会作成の小学校社会科副読本を効果的に連携させた広域交流型オンライン社会科地域学習の実施を通して、児童の主体的・対話的で深い学びを創造する。主な目的と実施内容は以下の 4 点である。

- 「東広島市内の小学校」と「学習対象となる地域等」と「広島大学」がオンラインでつながり、遠隔(オンライン)で授業を実施する。
- 遠隔授業の全体進行は、広島大学の担当者が行う。各教室での指導は、各学級の担任等が行う。
- 遠隔授業では、児童が自分のタブレットから参加できる機会を設ける。
- 授業時は、参加校に技術的なサポート要員(大学院生等)を派遣し、授業準備、授業支援、後片付け等を行う。

◆ プロジェクトの実施体制



◆ 実施スケジュール

対象	実施日	単元名
第4学年	2021年6月18日	ピンク色のバスのヒミツをさがれ！仲間をさがせ！ 「バスを比べよう(1)ーピンクのバスのひみつー」
第4学年	2021年6月25日	ピンク色のバスのヒミツをさがれ！仲間をさがせ！ 「バスを比べよう(2)ー私たちの町のバスのひみつー」
第3学年	2021年7月15日	「スーパーと直売所、どこが違う？どこが同じ？」
第4学年	2021年9月15日	「さい書から身を守るーさい書でケンなところ、さい書のサインをさがそう！ー」
第3学年	2021年10月20日	「高屋に新しい消防署ができるらしいよ・・・なぜ？」
第4学年	2021年11月17日	「伝とう」って変わっていいの？私たちのまちの伝とうと未来を予想しよう」
第3学年	2021年12月15日	「駅からみるわたしたちの市のあゆみ」
第4学年	2022年1月19日	「外国から来た人にとって東広島市はくらしやすいか？」
第3学年	2022年2月9日	「もしも東広島に大学がなかったら？」
第4学年	2022年3月9日	『わたしたちの東広島市』の表紙にぴったりな写真を選ぼう」

2. 実施要領

2021年6月16日（水）

草原和博（広島大学・教授）

東広島市・広島大学教育ヴァイジョン研究センター連携 「広域交流型オンライン社会科地域学習」実施要項

1 目的

広島大学教育ヴァイジョン研究センターが開発した「のん太の学び場」（東広島市地域学習用デジタルコンテンツ）と東広島市教育委員会作成の小学校社会科副読本を効果的に連携させた広域交流型オンライン社会科地域学習の実施を通して、児童の主体的、対話的で深い学びを創造する。

2 実施内容

- 市内の小学校、学習対象となる地域等と広島大学がオンラインでつながり、遠隔授業を行う。
- 遠隔授業の全体進行は、大学の担当者が行う。各教室での指導は、各学級の担任等が行う。
- 遠隔授業では、児童が自分のタブレットから参加できる機会を設ける。
- 参加校に技術的なサポート要員（大学院生等）を派遣し、授業準備、授業支援、後片付け等を行う。

3 試行の日時と対象および目標

- 東広島市内小学校5校の4年生（全130名程度）
八本松小（八本松）、平岩小（西条）2クラス、河内小（河内）、豊栄小（豊栄）、木谷小（安芸津）
- 第1次：2021年6月18日（金）5・6時間目 13：40～15：15
「バスを比べよう（1）ーピンクのバスのひみつー」
 - ・「のんバス」の特色を、民間事業者の路線バス（JRバスまたは芸陽バス）との比較を通して記述できる。
 - ・「のんバス」を運行することの社会的意義を、（公共性の視点から）説明し、表現できる。
 - ・タブレットを操作して、自分の選択を発信している。オンラインでの学習に参加し、発表できる。
- 第2次：2021年6月25日（金）5・6時間目 14：00～15：15

「バスを比べよう（2）ー私たちの町のバスのひみつー」

- ・「コミュニケーションバス」が直面している課題を見つけて、簡潔書きにできる。
- ・「コミュニケーションバス」の課題の解決策を（公共性や効率性の視点から）提案し、主張できる。
- ・タブレットを操作して、地元バスについて調べ、発表している。オンラインで他の学校の児童や知らない人と質疑ができる。

4 第1次の授業展開と移動行程

時間	担当者	場所	中継内容	観察・聞き取り項目
12:30~13:30	草原・大坂・小栗・川上	芸陽バス(車庫・会議室) 市役所(北館2階202)	事前打ち合わせ, リハーサル	
13:10~13:30	全員	各学校	接続テスト, あらかじめクイズページへのQRコードを読み込ませる	
13:40~13:50	草原	芸陽バス(車庫)	5 時間目の導入: 「のんバスのアピールポイントはなにか?」 ①アンケート結果の報告, 児童へのフィードバックと質問, クイズ	
13:50~14:10	草原・大坂	芸陽バス(車庫)	②路線バス→のんバスの観察. 2つを比べて「のんバスらしさ」を見つけよう!	別紙1
14:00~14:08	小栗・川上	西条駅	③西条駅前バス停を観察. 始発, 間隔, 終発, 便数, ルートなど	小さなバス
14:08~14:13	草原・大坂	西条駅	④ヒミツの70番をもって「さくらや」で買い物. 割引券ゲット	15分おきに発車するバス
14:14~14:17	小栗・川上	西条駅~中央公園前	⑤14:15 発ののんバスに乗って, 市役所に行こう. 車窓レポート	ねだんが変わらないバス
14:17~14:25	草原・大坂	芸陽バス(会議室)	⑥ 「のんバスらしさ」をオンラインで jam board に書き込もう!	店や病院にたちよるバス
14:25~14:30			⑦「のんバスらしさ」を緩やかにまとめる	ぐるっとまわるバス
14:30~14:40	草原・大坂	芸陽バス(会議室)	休み時間	お店をおうえんするバス
14:40~14:50	草原	芸陽バス(会議室)	5 時間目の終結: 「のんバスらしさ」ってなんだろ?→これだけでいいよ?ぶ?	
14:50~14:55	小栗・川上	市役所(北館2階202)	6 時間目の導入: のんバスの利用者数や経営に関するデータの提示	
14:55~15:00	草原・大坂	芸陽バス(会議室)	利用者は伸びてきたが, 伸び悩み. 利用者の運賃だけでは運行できない。	
15:00~15:05	草原(守谷)	芸陽バス(会議室)	① 「のんバスのなぜ・不思議」をオンラインで jam board に書き込もう!	別紙2
15:05~15:10	草原・小栗	芸陽バス, 市役所	②市役所担当者へのインタビュ (「のんバスのなぜ・不思議」に答える)	別紙2
15:10~15:15	草原	芸陽バス(会議室)	③バス事業者へのインタビュ (「のんバスのなぜ・不思議」に答える)	
			④ これぞベスト「のんバスらしさ」を決めよう →オンラインで投票する	
			⑤市役所担当者とはバス事業者が, オンライン投票の結果にコメントする	
			6 時間目の終結: 「のんバスの役割とは何だろう?」 次週の発表課題指示: 私たちのまちのバスの「凄いところ」と「お悩み」を 3分以内で発表する. しっかり取材をしておいてね。	

別紙

1. 「路線バス」と「のんバス」の観察と比較のポイント

- ・ 全長 (短い vs 長い)
- ・ 出入りのドアの数 (1つ vs 2つ)
- ・ 前の行き先表示, 横の方向表示 (循環バス vs 終点表示), ルート (ぐるぐる or 遠くへビューっと)
- ・ 回数券の機械 (固定番号 or 番号が変わる)
- ・ 料金表示 (均一 or 距離制) → 西条駅からゆめタウンまで, のんバスだと200円, 路線バスだと140円!

2. 想定される「なぜ・不思議」

- ・ 「なぜ」バスは, あんなに小さいのですか?
- ・ 「なぜ」バスは, 15分おきなんですか? 朝8時から夜8時までなんですか? 夜9時まで走ると塾帰りに便利なのに。
- ・ 「なぜ」お客さんはだんだん増えてきたのですか? なぜ最近お客さんは減ってきたのですか?
- ・ 「なぜ」もうからないのに (赤字なのに), のんバスを走らせているのですか?
- ・ 「なぜ」市内をぐるぐるまわっているのですか?
- ・ 「なぜ」おまけを付けているのですか?
- ・ どれだけのつっても (たった1区間でも), 「なぜ」値段は変わらないのですか?
- ・ もっと速くまで (私たちの学校に) 行ってくれないのですか? 「なぜ」平岩小学校の方に来てくれないのですか?

準備物

1. 教室掲示物 (①のんバスの循環ルート, ②のんバスの乗降客数グラフ, ③のんバスの収入グラフ, をA3に印刷したものを各クラス用に6部)
2. Jam board (①のんバスらしき, ②のんバスのなぜ・不思議)
3. Google form QRコード印刷 (①クイズのページへの誘導, ②オンライン投票のページへの誘導はクイズのページからリンクを張ることで対応)

運営分担

1. 中継1 (芸陽車庫): 大坂・草原 … ビデオカメラまたはvlogcam, ワイヤレスマイク, これらを接続するPC, Wi-Fiルーター, 電源延長コード
2. 中継2 (駅前・バス・市役所): 小栗・川上 … iPhone, 電動スタビライザー, 個人PC (マイク・スピーカー), イヤホン, Wi-Fiルーター
3. 支援 (桃教大学): 守谷 … jam boardの発表内容の整理, Formsのオンライン投票の項目設定
4. 支援 (ホスト): 草原聡美 … 大学待機, スクリーンショット

ロジ

草原・大坂 (芸陽バス本社)	小栗・川上 (西条駅前・市役所)	守谷 (桃山教育大学)
<p>○12:00：公用車で大学出発。 市役所経由で芸陽バスの車庫へ移動。 ○12:30：芸陽バスの会議室に荷物を置く。 カメラ・スピーカー・マイク・PC 設置 ○12:40：芸陽バス車庫でリハーサル開始。 路線バスとのんバスの撮影箇所、カメラワークの確認。 ・外部から大ききとドアの数を確認。 ・内部から椅子の数と定員を確認。 ・路線バスには、バスセンター行きまたは竹原進行きの表示と整理券の設定、料金表示をお願いする。 ・のんバスには、通常の運行表示と整理券の設定、料金表示をお願いする。 ・時間を許せば、障がい者対応の設定をお願いする。 ○13:10：接続テストに参加 (PC と vlog の両方で) ●13:40：授業開始、vlog カメラ対応。 ●14:05：バス車庫から授業を再開、PC カメラ対応。 ●14:10：会議室から授業を再開、PC カメラ対応。 ●14:16：パワポの画面共有を守谷から引き継ぐ。 ●14:25：休み時間</p>	<p>○12:00：公用車で大学出発。 ○12:15：市役所で下車、13 時まで昼食 ○13:00：北館 2 階 202 へ。会議室に荷物を置く。 カメラ・スピーカー・マイク・PC 設置。市役所担当者と 簡単な打ち合わせ。 ○13:10：接続テストに参加 (PC とスマホの両方で)。 ○13:20：会議室に鞭をかけて、のんバスで西条駅へ移動。 乗車証明書を受領。(中央公園は 1320 発または 1335 発) ●13:40：西条駅前でスタンプバイ、スマホカメラ対応。 ●13:55：西条駅前バス停の時刻表やルート案内、バスの バス乗り場を概観できる位置へ。 ●14:05：さくら屋で「たる最中」か「どら焼き」を買っ て、割引券をもらう。割引をアピール。 ●14:13：1415 発のバスに他の客に先んじて乗る。 ●14:15：最後部の座席からバス内部の構造と車窓を中継。 料金表示や客数、客層をレポート。 ●14:16：中央公園で下車。下りた時点で一度レポートを 停止。市役所へ徒歩移動。 ●14:25：北館 2 階 202 に戻る。PC カメラ対応。 授業の展開を継続的にモニタリング。 ●14:30：授業開始。 ●14:30：市役所の担当者と、jambboard への書き込みを随 時確認する→答えを準備してもらう。 ●14:50：市役所担当者に、草原が選んだ「なぜ」の質問 に答えてもらう (5 分)。小学生に分かる言葉で短く話す ようにアドバイスする。(川上は写真撮影)。 ●15:05：市役所の担当者に、ベスト「のんバス」らしき を選んでもらう。jambboard をよく見ていただき、「のん バス」運行の理念からベストを選んでもらう (3 分)。 ●15:15：授業終了。最後に全員で手を振る。 ○15:30：お礼・撤収。忘れ物がないかを確認。 ○15:40：公用車でピクアップ。</p>	<p>○13:10：接続テストに参加。共同ホストとして、各学 校端末や関係者をパネリストに格上げする。 ○13:20：各校に QR コードの読み込みを呼び掛ける。 ○13:30：オープニング動画の共有開始。 ●13:40：授業開始。パワーポイントの画面共有開始。 1 時間目のパワポ操作は、主に守谷が担当する。草原が 「画面共有をお願いします」「画面共有解除してください」 と発言する。それに合わせて操作する。 ●13:45：のんバススクイズ 1 →投票結果の画面共有。 ●14:00：のんバスの始発・終発。本数が示されたスライ ドは、展開に応じてビジュアルのマスクを順次外していく。 ●14:20：jambboard の書き込みを見守る。どのようなカテ ゴリ化が可能か、イメージを固める。 ●14:30：授業再開。 2 時間目のパワポ操作は、主に草原が行う。 ●14:30：草原が「のんバスらしさ」のまとめを発言する。 それを踏まえて、ベスト「のんバスらしさ」の forms の 選択肢を作成する。5 項目以上は立てたい。 ●14:35：のんバススクイズ 2 →投票結果の画面共有。 ●14:50：ベスト「のんバスらしさ」の forms の選択肢の 妥当性を最終確認する (草原も裏でチェック)。 ●15:00：ベスト「のんバスらしさ」投票→結果共有。 ●15:10：時間があれば、ベスト「のんバスらしさ」につ いてコメントする。 ●15:15：授業終了。最後に全員で手を振る。</p>
<p>●14:30：授業再開 ●14:30：芸陽バス担当者と、jambboard への書き込みを随 時確認する→答えを準備してもらう。 ●14:45：ベスト「のんバスらしさ」の forms の選択肢の 妥当性を最終確認する。 ●14:55：芸陽バス担当者に、草原が選んだ「なぜ」の質 問に答えてもらう (5 分)。小学生に分かる言葉で、短く 話すようにアドバイスする。 ●15:05：芸陽バス担当者に、ベスト「のんバス」らしき を選んでもらう。jambboard をよく見ていただき、担当者 のお考えに基づいて、ベストを選んでもらう (3 分)。 ●15:15：授業終了。最後に全員で手を振る。 ○15:30：お礼・撤収。忘れ物がないかを確認。</p>	<p>○12:00：公用車で大学出発。 ○12:15：市役所で下車、13 時まで昼食 ○13:00：北館 2 階 202 へ。会議室に荷物を置く。 カメラ・スピーカー・マイク・PC 設置。市役所担当者と 簡単な打ち合わせ。 ○13:10：接続テストに参加 (PC とスマホの両方で)。 ○13:20：会議室に鞭をかけて、のんバスで西条駅へ移動。 乗車証明書を受領。(中央公園は 1320 発または 1335 発) ●13:40：西条駅前でスタンプバイ、スマホカメラ対応。 ●13:55：西条駅前バス停の時刻表やルート案内、バスの バス乗り場を概観できる位置へ。 ●14:05：さくら屋で「たる最中」か「どら焼き」を買っ て、割引券をもらう。割引をアピール。 ●14:13：1415 発のバスに他の客に先んじて乗る。 ●14:15：最後部の座席からバス内部の構造と車窓を中継。 料金表示や客数、客層をレポート。 ●14:16：中央公園で下車。下りた時点で一度レポートを 停止。市役所へ徒歩移動。 ●14:25：北館 2 階 202 に戻る。PC カメラ対応。 授業の展開を継続的にモニタリング。 ●14:30：授業開始。 ●14:30：市役所の担当者と、jambboard への書き込みを随 時確認する→答えを準備してもらう。 ●14:50：市役所担当者に、草原が選んだ「なぜ」の質問 に答えてもらう (5 分)。小学生に分かる言葉で短く話す ようにアドバイスする。(川上は写真撮影)。 ●15:05：市役所の担当者に、ベスト「のんバス」らしき を選んでもらう。jambboard をよく見ていただき、「のん バス」運行の理念からベストを選んでもらう (3 分)。 ●15:15：授業終了。最後に全員で手を振る。 ○15:30：お礼・撤収。忘れ物がないかを確認。 ○15:40：公用車でピクアップ。</p>	<p>○12:00：公用車で大学出発。 ○12:15：市役所で下車、13 時まで昼食 ○13:00：北館 2 階 202 へ。会議室に荷物を置く。 カメラ・スピーカー・マイク・PC 設置。市役所担当者と 簡単な打ち合わせ。 ○13:10：接続テストに参加 (PC とスマホの両方で)。 ○13:20：会議室に鞭をかけて、のんバスで西条駅へ移動。 乗車証明書を受領。(中央公園は 1320 発または 1335 発) ●13:40：西条駅前でスタンプバイ、スマホカメラ対応。 ●13:55：西条駅前バス停の時刻表やルート案内、バスの バス乗り場を概観できる位置へ。 ●14:05：さくら屋で「たる最中」か「どら焼き」を買っ て、割引券をもらう。割引をアピール。 ●14:13：1415 発のバスに他の客に先んじて乗る。 ●14:15：最後部の座席からバス内部の構造と車窓を中継。 料金表示や客数、客層をレポート。 ●14:16：中央公園で下車。下りた時点で一度レポートを 停止。市役所へ徒歩移動。 ●14:25：北館 2 階 202 に戻る。PC カメラ対応。 授業の展開を継続的にモニタリング。 ●14:30：授業開始。 ●14:30：市役所の担当者と、jambboard への書き込みを随 時確認する→答えを準備してもらう。 ●14:50：市役所担当者に、草原が選んだ「なぜ」の質問 に答えてもらう (5 分)。小学生に分かる言葉で短く話す ようにアドバイスする。(川上は写真撮影)。 ●15:05：市役所の担当者に、ベスト「のんバス」らしき を選んでもらう。jambboard をよく見ていただき、「のん バス」運行の理念からベストを選んでもらう (3 分)。 ●15:15：授業終了。最後に全員で手を振る。 ○15:30：お礼・撤収。忘れ物がないかを確認。 ○15:40：公用車でピクアップ。</p>

5 第2次の授業展開と移動行程

時間	担当者	場所	中継内容	観察・聞き取り項目
13:10～13:20	草原・大坂・小栗	大学(草・大) 安芸津駅(小栗)	事前の打ち合わせ, リハーサル	
13:20～	小栗	安芸津駅	海風バスに乗車開始	
13:20～13:50	全員	各学校	接続テスト, あらかじめアンケートページへのQRコードを読み込ませる	
14:00～14:20	草原	大学, 各学校	5時間の導入 学校別の発表: 「私たちのまちのバスの凄いとどこがお悩み」を発表する ①のんバス(八本松小, 平岩小) ②あゆびチふれあい号(河内小) ③豊栄そよかぜ号(豊栄小) ④海風バス(木谷小) ⑤いろいろなバスの「お悩み」で共通するところはどこ? ⑥お悩みの中から, とくに気になる「お悩み」を選び, オンラインで jam board に書き込もう→なぜそれが気になるのかな?	※タブレットや小型のホワイトボード, 黒板等を使って, 各校の代表者が発表する(カメラで写す)
14:20～14:25	草原	大学		
14:25～14:30	小栗	海風バス	⑦車内より海風バスの時刻表, 利用者, 利用区間, 料金などを報告	
14:30～14:35	小栗	バス待機場所(支所)	⑧海風バスの運転手さんへのインタビュー	別紙3
14:35～14:40			休み時間	
14:40～14:50	草原 大坂	大学 市役所(本館3階301)	5時間の総括: 私たちのバスのお悩みは ①私たち小学生がぜひ解決したい「お悩み」は?→オンラインで投票する ②市役所担当者へのインタビュー(「お悩み」が生まれる背景の解説) 6時間の導入: 私たちのまちのバスは, このままでいいのだろうか? ③バスの「お悩み」を解決するためには, こうするべきだ! お悩み解決隊: 私たちの提案をオンラインで jam board に書き込もう! ・平岩, 八本松小→地元のおんバスへの提案 ・河内, 豊栄, 木谷小→地元コミュニティバスへの提案	
14:50～15:05	草原	大学		
15:05～15:10	大坂	市役所	④市役所担当者が, 書き込みの結果についてコメントする	別紙4
15:10～15:15	草原・川上	大学(無人バスHIROMOBI) 教育学部→保育園	6時間の総括: コミュニティバスの役割と課題とは何だろうか? HIROMOBIは, 何のために, どのように実働しているのだろうか?	アンケートの 回答依頼

別紙

3. 海風バスの運転手へのインタビュー

- ・ いつものようなことに気を付けて運転していますか？
- ・ いつものようなお客さんがのっていますか？
- ・ お客さんの多い時間はいつですか？ お客さんの利用者が多い区間はどこですか（ルート地図を示しながら）？
- ・ 運転していて嬉しかったことは何ですか？ 運転して困ったことは何ですか？
- ・ 1日、何時間ぐらい運転しているのですか？

4. 想定される「提案」

- ・ バスは、もっとたくさん（毎日、毎時間）走るべきだ。なぜなら…
- ・ バスは、もっといろいろいるところ（病院やスーパー）に立ち寄るべきだ。なぜなら…
- ・ バスは、もっと速くへ、〇〇へ行くべきだ。なぜなら…
- ・ バスの料金は、もっと安くすべきだ。なぜなら…
- ・ バスの大きさを、もっと小さく/大きくするべきだ。なぜなら…

準備物

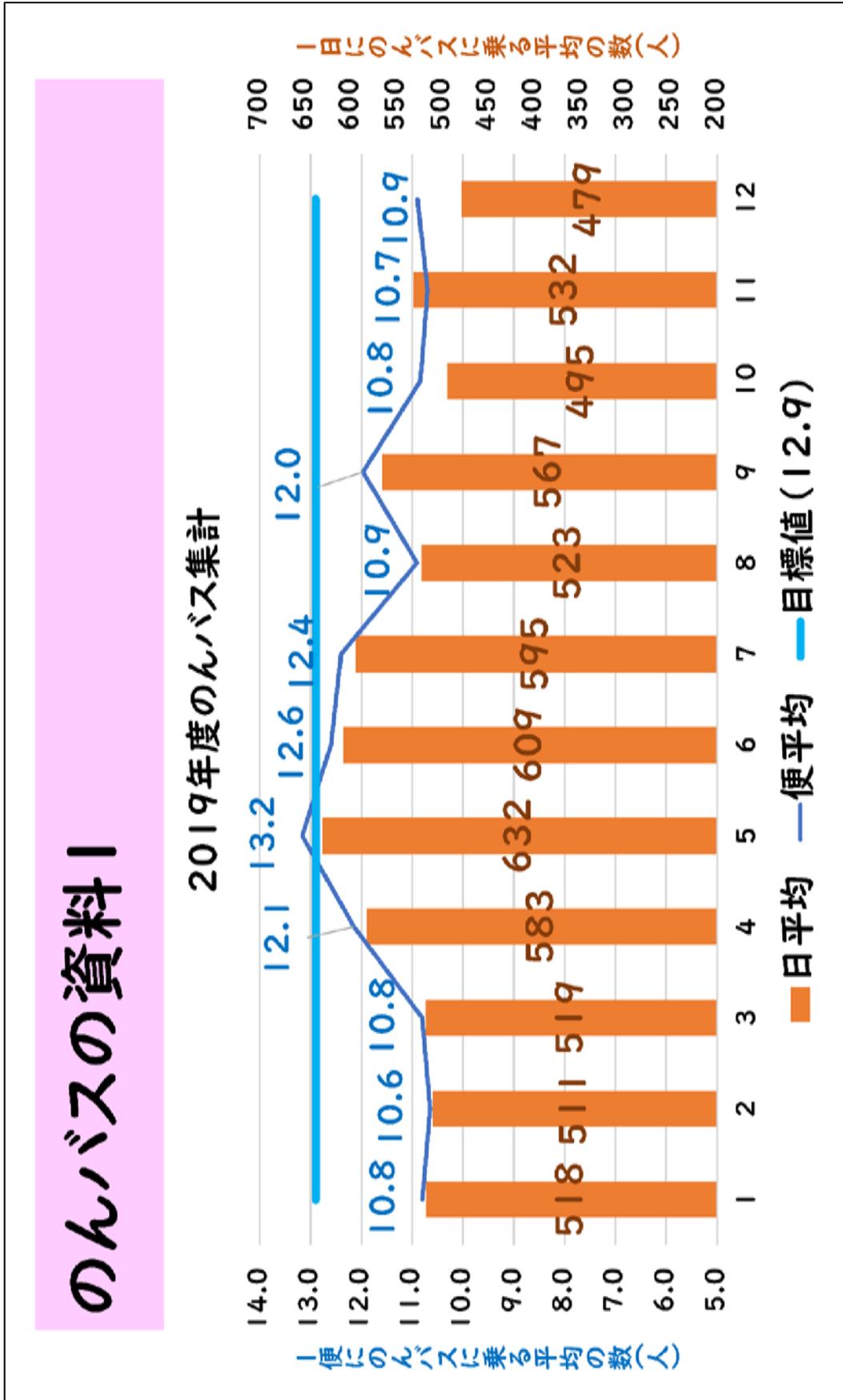
1. 教室掲示物 ①海風バスのルート、②海風バスの時刻表、を A3 サイズに印刷した掲示物を各クラス用に 6 部)
2. Jam board ①バスのお悩み、②お悩み解決隊・各校の提案)
3. Google form QR コード印刷（授業終了後の①教師向けアンケート、②子ども向けのアンケート。実施日は当日でもよいし、別日でもよい）

運営分担

1. 中継 1（海風バス）：小栗 … iPhone, 電動スタビライザー, イヤホン, Wi-Fi ルーター
2. 中継 2（市役所）：大坂 … 個人用 PC（マイク・スピーカー）、個人用ルーター, イヤホン
3. 中継 3（HIROMOBI）：川上 … スマートフォン, Wi-Fi ルーター
4. 固定（ホスト）：草原和博 …（普段使いの）Let's Note, デイスブレイ・スピーカー, マイク（支教室から借用）
5. 支援（桃教）：守谷 … jam board の発表内容の整理, Forms のオンライン投票の項目設定
6. 支援（広大）：草原聡美 … 大学待機, スクリンショット

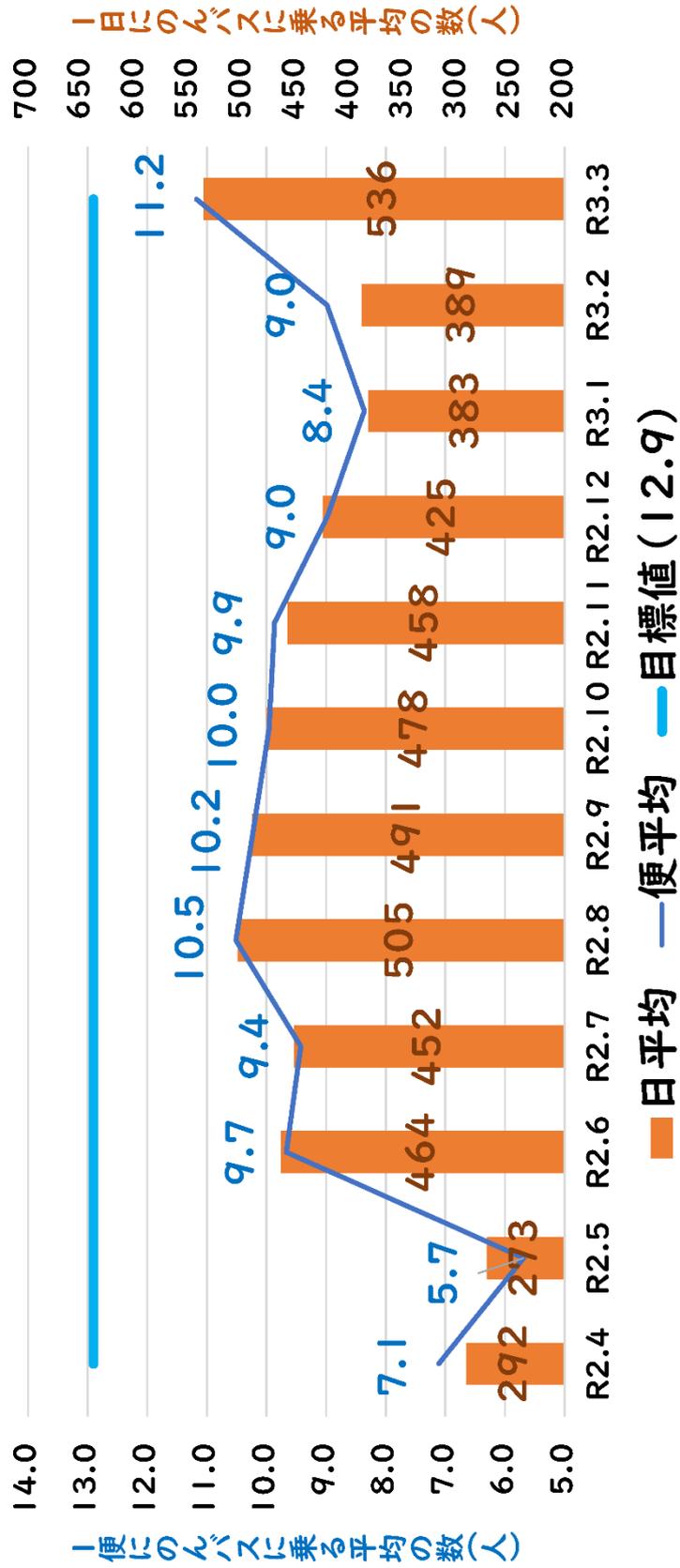
ロジ

大坂（市役所）	小栗（安芸津・海風バス）	草原・川上（広島大学）、守谷（桃山教育大学）
<p>○13:00： 公用車で大学出発。 ○13:30： 本館3階301へ。会議室に荷物を置く。 カメラ・スベーカー・マイク・PC設置。 ○13:30： 接続テストに参加。 市役所担当者で簡単な打ち合わせ。 以後、随時、写真撮影。</p> <p>●14:00： 授業開始。 ●14:05： 市役所の担当者で各校の発表を聞く。 ●14:35： 休み時間</p> <p>●14:40： 授業再開 ●14:40： 市役所の担当者とのん太アンケート2の投票結果を見守る。 ●14:45： 市役所の担当者に、お悩みの背景（なぜこういう課題が生じるのか）について短く解説いただく。 短く端的に説明いただくようお願いする（2分）。 ●14:50： 市役所の担当者と、jamboardへの書き込みを随時確認する→答えを準備してもらおう。 ●15:05： 市役所の担当者に、児童が提案するお悩み解決策に対してコメントしてもらおう（3分）。小学生に分かる言葉で、できること・できないこと・考慮に値することを明確に述べていただく。 ●15:15： 授業終了。最後に全員で手を振る。</p> <p>○15:30： お礼・撤回。忘れ物がないかを確認。</p>	<p>○12:30： 小栗の車で大学出発 ○13:10： 安芸津駅に駐車。 ○13:20： 海風バス（風早・大田線）に乗車。 お客の数、年齢層、乗車区間、ルートの特徴をメモ ○13:20： 接続テストに参加。 運転手やお客さんとはなごやかな関係を構築。 以後、随時、写真撮影</p> <p>●14:00： 授業開始。授業展開をモニタリング。</p> <p>●14:25： レポート開始。観察結果を報告。 ●14:29： イズミ着。一緒に支所（待機所）に移動。 運転に影響のない範囲で、車中でインタタビュアーも可。 ●14:32： 待機所に到着。 各学校から、オンラインで質問を受け付ける。 ●14:35： 休み時間 ○14:40： お礼・撤回。忘れ物がないかを確認。</p>	<p>○13:20： 接続テストに参加。 ○13:20：（守谷）共同ホストとして、各学校端末や関係者をパネリストに格上げする。各校にQRコードの読み込みを呼び掛ける。 ○13:50：（守谷）オープニング動画の共有開始。 ●14:40： 授業開始。パワポ操作は、主に草原が担当する。 ●14:00：（草原）のん太アンケート1→投票結果の画面共有。 ●14:20：（守谷）jamboardの書き込みを見守る。どのようなカテゴリ化が可能か、イメージを固める。 ●14:25：（守谷）並行して、のん太アンケート2の選択肢をformsに設定する（草原も裏でチェック）。 ●14:35： 休み時間 ●14:40： 授業再開。パワポ操作は、主に草原が行う。 ●14:40：（草原）のん太アンケート2→投票結果の画面共有 ●14:45：（草原）お悩みの背景を市役所担当に尋ねる。 ●15:00：（川上）vlogカメラをもって教育学部の西側の駐車場（HIROMOBIバス停）に移動。 ●15:10：（草原）授業のまとめに入る。 ●15:10：（川上）HIROMOBI（左回り）に乗車する。 草原の質問（運転手、座席数、騒音・エンジンなど）に答えながら中継する。休育園前で下車。 ●15:15： 授業終了。最後に全員で手を振る。 （川上）HIROMOBIに乗って教育学部に戻る。</p>



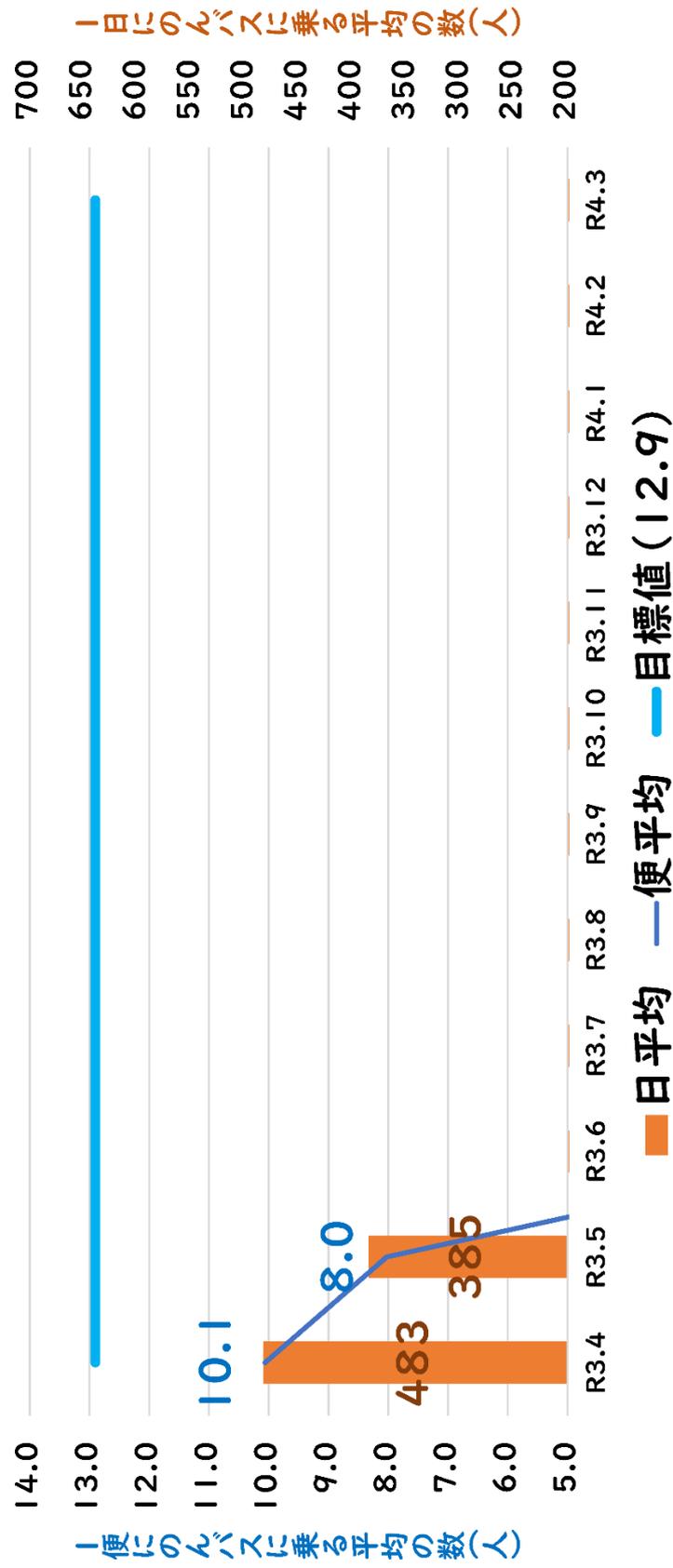
のんバスの資料2

2020年度ののんバス集計



のんバスの資料3

2021年度ののんバス集計



4. 実施報告

※以下、文章と写真は [EVRI ウェブサイトの開催報告記事](#)より引用、一部改変。

※開催報告動画は [YouTube チャンネルにてご覧頂けます](#)。

開催報告記事はこちら 	YouTube チャンネルはこちら 
---	--

◆ 6月18日：「バスを比べよう(1)ーピンクのバスのひみつー」

2021年6月18日に実施した授業では、東広島市内小学校5校(八本松小学校, 平岩小学校2クラス, 木谷小学校, 河内小学校, 豊栄小学校)の4年生(130名程度)が参加しました。第1週目は、「のんバス」と民間の路線バスと比較することで、違いを見出すとともに、コミュニティバスの運行に関して「問い」を発見し、解決することを目標としました。

1時間目は、芸陽バスの西条車庫から通常の「路線バス」と「のんバス」のようすを中継で観察しました。それぞれのバスの大きさや行き先・ルート、時刻・運賃設定、乗降口の数などを比較し、のんバスの役割を「公共性」の視点から分析していきました。また乗車証明書を持参して西条駅前のお菓子屋さんで買い物して、割引券をもらう様子の中継しました。買い物や通院・通学だけでなく、地域の活性化にも貢献しようとするコミュニティバスの役割を学びました。

2時間目は、1時間目に学んだ「のんバス」の基本情報を振り返るとともに、運賃収入だけでは維持できず補助金をえて運行している状況を知りました。児童には、「なぜ・どうして」をたくさん出してみよう！と指示したところ、「なぜ赤字なのに走らせるのか」「なぜ西条にしか走っていないのか(私たちのまちにはないのか)」などたくさんの疑問が寄せられました(「赤字のバスを走らせるべきか」をめぐって一人ひとりが意見表明もしました)。これらの問いに対して、専門家の市役所やバス会社の担当者が真剣に答えていきました。

一連の課題発見・課題解決を通してコミュニティバスの社会的意義を探究するとともに、西条以外の土地に走るコミュニティバスについても調べてみたいという意欲が高まりました。



芸陽バス本社から授業を行う
(草原先生と斉藤さん)



バスの比較をする様子(大坂さん)



駅前から中継の様子
(小栗さん)



お菓子屋さんで買い物をする様子
(小栗さん)



のんバスに関するなぜ・どうして



市役所にて
(石橋さん, 鈴さん, 小栗さん)

◆ 6月25日:「バスを比べよう(2)ー私たちの町のバスのひみつー」

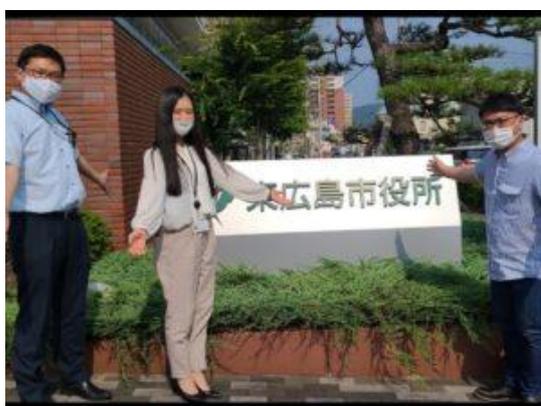
2021年6月25日に実施した授業では、東広島市内小学校5校(八本松小学校, 平岩小学校2クラス, 木谷小学校, 河内小学校, 豊栄小学校)の4年生(130名程度)が参加しました。

第2週目は、コミュニティバス運行にともなう「お悩み」を見出し、その解決策を構想することを目標としました。

1時間目は、参加校が、西条の「のんバス」とともに、豊栄の「そよかぜ号」、河内の「あゆピチふれあい号」、安芸津の「海風バス」の運行時刻や利用状況等について調べ発表しました。これらの地方のコミュニティバスは便数が少なく、あまり知られてもいないことが確認されました。途中「海風バス」の車内から中継をはさみ、乗客の数や乗車区間、乗車目的等についてレポートを受けました。参加した児童は、運転手さんにオンラインで直接質問する機会も得ました。

2時間目は、これらのコミュニティバスのお悩みを出し合いました。どのバスにも共通するお悩みとして「赤字が多いこと」「利用者が少ないこと」が挙げられました。参加した児童は、これらのお悩みの解決策を議論し、提案しました。参加した各校の児童は、これらのコミュニティバスがほとんど知られていない事実気づき、もっと広く知られるように看板やチラシを作るべきではないかと認知度を上げる方略を提案しました。市役所の担当者も現実的で効果的な提案にたじたじでした。最後に広島大学を走っている自動運転の小型電動バスの様子を観察し、未来のバスの姿にイメージを膨らませました。

2週間の学習を通して、「身近にありながらよく知らない」バスの存在について、参加校5校が互いに理解し交流し合うことで、公共サービスを担うコミュニティバスの機能と課題、そしてその解決策について認識を深めることができました。



市役所職員のお二人と記念撮影の様子
(鈴さん, 石橋さん, 草原先生)



質問に答えてくださった市役所職員
(鈴さん, 石橋さん)



HIROMOBI 車内の様子



HIROMOBI の外観



海風バスの運転手と中継担当者
(加藤さんと小栗さん)



運営サポートをするスタッフ
(守谷さん)

※市役所の鈴さんと石橋さん, 海風バスの加藤さんには, 氏名と写真の掲載の許可をいただいております。

5. 担当者・協力者一覧

◆ 企画・運営機関

広島大学教育ビジョン研究センター（EVRI）
草原 和博（人間社会科学研究科・教授）
宇ノ木 啓太（教育研究推進員）
大坂 遊（教育研究推進員）
草原 聡美（教育研究推進員）
吉田 純太郎（教育研究推進員）
守谷 富士彦（大学院 教育学研究科・博士課程後期）
河原 洸亮（大学院 教育学研究科・博士課程後期）
小栗 優貴（大学院 教育学研究科・博士課程後期）
川本 吉太郎（大学院 人間社会科学研究科・博士課程後期）
池田 優子（大学院 人間社会科学研究科・博士課程前期）
今井 祐介（大学院 人間社会科学研究科・博士課程前期）
川上 由美（大学院 人間社会科学研究科・博士課程前期）
正出 七瀬（教育学部 第二類 社会系コース）

◆ 連携・実施機関

東広島市教育委員会学校教育部
教育総務課情報教育推進室
沖 秀治（室長）
三井 成宗（室長補佐兼係長兼指導主事）

◆ 協力者

(株)芸陽バス 齊藤 良明 様
(株)芸陽バス 加藤 正人 様
(株)さくらや 西条駅前本店 様
東広島市地域振興部地域政策課 鈴 雄一 様
東広島市地域振興部地域政策課 石橋 万莉野 様

EVRI 研究プロジェクト叢書 Vol.8

2021 年度東広島市広域交流型オンライン地域学習
－ 2021 年 6 月実践「ピンク色のバスの
ヒミツをさぐれ!仲間をさがせ!」－

発行日 2022 年 3 月 31 日

編著者 草原和博・大坂遊・宇ノ木啓太・草原 聡美・
吉田純太郎

編集 広島大学教育ビジョン研究センター (EVRI)

印刷 (株)ニシキプリント



**EDUCATIONAL
VISION
RESEARCH
INSTITUTE**